

## 旧中西家住宅（吹田吉志部文人墨客迎賓館）保存活用検討会議（第3回）

1. 開催日時 令和5（2023）年5月29日（月） 9時30分～12時00分
2. 開催場所 旧中西家住宅（吹田吉志部文人墨客迎賓館）
3. 出席者人数 旧中西家住宅（吹田吉志部文人墨客迎賓館）保存活用検討会議委員 7名  
出席：仲副委員長、井上委員、橋寺委員、山本委員、望月委員、三原委員、西村委員  
事務局 文化財保護課 課長 葉山、坂原、立岡  
旧中西家住宅（吹田吉志部文人墨客迎賓館）館長 松本  
（一財）京都伝統建築技術協会 中村、村橋、鞍元  
京都芸術大学 荻野  
井手晃二建築研究室 井手  
株式会社乃村工藝社 三輪、藤居

4. 公開・非公開の別 公開

5. 傍聴人数 0名

### 6. 前回議事録の確認

事務局より前回議事録の概要を説明し、確認を行った。なお、前回会議において改めて検討することとなっていた建造物の区分の設定については、井上委員に個別に相談したうえで検討会議に諮りたい旨事務局から提案があり、了承された。

### 7. 議事内容及び発言の要旨

#### (1) 保存活用計画第3章 庭園の保存管理計画について

事務局より、資料3に基づき説明を行った。

#### (質疑応答)

議長：庭園の保存管理計画についてはいくつか課題が提示されたが、次回の会議で課題への対応と分類を行い、保存管理方針をまとめていく。

委員：文化庁が提示している文化財保存活用計画の目次では、庭園は「環境保全計画」となっており、建造物周辺の樹木や外構がどのような影響を与えているのかを記載するものであったと思うが、その内容はどこに記載するのか。

事務局：今回提示した資料には掲載していないが、調査票の備考欄には記載している。

議長：文化財建造物と記念物では文化庁から提示された指針が異なっている。現在は記念

物の指針に基づいて記載しているが、庭園の計画の中に環境保全の内容を含めるのか、第2章の建築の保存管理計画の中に含めるのかは、事務局で改めて整理してほしい。

委員：庭園を構成する石については、業者から庭石として取り寄せたものの他に、石臼など、中西家で使用されていた石材を再利用したものもあるので、わかるように明記してほしい。また、庭石をどこから取り寄せたのかがわかると中西家の交友関係がわかるので、石の材質もぜひ明記してほしい。

事務局：名勝登録前の調査には石の材質の記録があるため、計画に反映させる。

委員：名勝を構成する諸要素の区分け方法が不明確である。例えば、明らかに新しい立水栓は構成要素Aで区分けされているのに対し、石造の防水升は構成要素Bとなっている。

事務局：記念物登録時に存在しているものはAとしている。防水升については機能的にはBとしたが、中西家の歴史の中で評価すべき要素であれば文中で補足説明を入れる。

議長：登録以前に改変されているものは登録時に存在しているからといって、必ずしも構成要素Aに区分けしなくてもよいと思う。Aは維持していくもの、または修理するとしても元の形に復原するもの、Bは機能を残すが材料としては取り替えてもよいもの、Cは不要なもの、という整理で見直したほうがよい。また、記念物の登録申請時の構成要素と区分けが異なる要素がある。必ずしも申請時と同じ区分けでなくてよいと思うので、改めて内容を精査し整理してほしい。

## (2) 保存活用計画第4章 防災計画について

事務局より、資料4に基づき説明を行った。

### (質疑応答)

委員：耐風、耐震対策と異なり、防火対策については自分たちである程度予防することが可能である。出火原因の一つとして古い電気系統からの漏電ということをよく聞くので、旧中西家住宅の電気配線についてはきちんと対策を講じてほしい。

議長：電気系統については調査しているのか。

事務局：今後調査し、計画に反映する。

委員：自動火災報知設備については、差動式分布型（空气管）か、スポット型のどちらが配置されているのか。

事務局：空气管が中心で、部分的にスポット型を配置している。

委員：耐震対策については、2011年のマニュアルに基づき耐震診断を行っているということだが、2年ほど前に偏心率についても考慮するようマニュアルが改訂されている。偏心率については計算しているのか。

事務局：偏心率は床が剛床であるのが前提であるが、平屋で剛床とは言えないので計算していない。それぞれの耐震要素が全体としてバランスよい配置となっているかを見て対策を検討している。

委員：今回の資料では耐震設計案も提示されているが、計画にも掲載するのか。活用計画にもかかわってくる内容だと思うので、現段階で決めてしまわずに、このぐらいの壁量が必要、と提示をする程度の方が良いのではないか。

事務局：耐震診断時に提案された計画案ということで掲載する予定である。勘定部屋については活用の内容によって診断のやり直しも検討する。

委員：キザラ小屋は開放的な建物なので、屋根面をしっかりとさせるとか、梁レベルで追加材を入れるなど、水平剛性を確保したほうが良いのではないかと思う。また、内蔵は壁のチリに面格子をはめこむ、という補強も考えられる。できるだけ広い空間を確保できるような補強案を考えてほしい。

議長：耐震診断に基づいた方針を示すことは大事である。今回事務局から説明のあった内容については記述の中に入れ込んでほしい。そのうえで、補強案を提示する場合はメリットとデメリットを明確にし、実施設計で具体的に設計する際の参考となるようにすればよいのではないか。

### (3) 保存活用計画第5章 活用計画について

事務局より、資料5に基づき説明を行った。

#### (質疑応答)

委員：公開テーマはシンプルにして、集中してみてもらほうが話題になりやすい。特に、近年外国人には日本庭園が人気であるため、日本庭園を勉強する留学生をターゲットにした庭園ツアーを試験的に行ってもよいかもしれない。京都では、庭師とめぐる少人数の庭園ツアーなどが非常に人気である。また、動画での公開は効果的であると思う。

事務局：現在は考えられる活用方法を挙げているが、絞り込んで、何をどのような順番で行うのか優先順位をつけていく必要がある。また、西尾家住宅、浜屋敷と同じようなことをしても仕方がないので、三館の棲み分け・連携についても具体的に考えていく必要がある。また、施設のことだけでなく、周辺の情報も併せて発信していきできれば充実した情報発信になるのではないか。

委員：内容が盛りだくさんの資料だが、保存活用計画ではすべての内容を記載するのか。また、他の施設の事例を挙げていただいているが、旧中西家住宅としてはどうあるべきかということをもっと記載したほうが良いのではないか。

事務局：今回の資料の内容をすべて記載するのではなく、今後不要な情報を削除して情報を絞り込んでいく。

委員：情報発信先のリストに歴史系学科や機関のある大学も入れてはどうか。また、PR誌や出版社関係は大手のものばかりが挙げられているが、北摂地域にはタウン誌も多い。もう少し地域に密着した情報誌にも発信したほうが良い。北摂地域にある博物館や図書館にも勉強熱心な方が来られるので、情報発信に効果的だと思う。大阪商業大学の博物館

には大阪画壇の研究者もたくさんいる。旧中西家住宅の調査にも協力してもらっている。  
議 長：これまで旧中西家住宅に関わってくださった方や機関のリストを整理し、次回までに、迎賓館としての利用の提案と合わせて提示してほしい。

以上